



Title	2013年度 意匠学会作品賞選考結果報告
Author(s)	塚田, 章
Citation	デザイン理論. 2014, 64, p. 6-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56315
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2013年度 意匠学会作品賞選考結果報告

学会賞選考委員会

副委員長 塚 田 章

第55回意匠学会大会に於いてパネル発表された作品の審査を2013年7月21日に実施し、選考結果が下記の様になりましたので報告致します。

■ 場所 福井工業大学 プロダクトデザインスタジオ

■ 参加メンバー 伊原久裕先生、榑勝彦先生、山形正昭先生、塚田章（座長）

山形正昭先生は初日のみの参加のため所見を受け取り残りの上記残りの3名で審査を行いました。

■ 2013年度審査対象の作品

・川島洋一会員 “ハンズ・オン・ワークショップによるベンチ制作教育”

・益岡 了会員 “「車文化としての地域振興イベント」～金津創作の森におけるフレンチトーストピクニック13年開催の歩み～”

・藤本純子会員 “歴史的衣服の複製作品の制作——ジャンヌ・ランヴァンのローブ・ド・スタイル”

以上3作品

■ 2013年度意匠学会作品賞審査結果

2013年度のパネル発表は、昨年度同様、発表作品数が非常に少ない事がネックとなっていました。取りあえず昨年同様に通常の審査を行う事で意見は一致しました。

川島洋一会員、益岡了会員、藤本純子会員の発表はそれぞれ、デザイン教育の現場での現物体験を軸とした実習教育の紹介、地域振興の文化イベントを誕生させ、根付かせ、継続実施させた事例の報告、歴史的衣服の再現を、実際に装える状態を目指し複製検証した実施例の発表というように作品として創出された個人の独自の研究というよりも、実施報告的側面が強く現れていて、作品賞として説得させられる研究成果が見え難いといった見解が各委員から為されました。発表作品数が3点であったことと併せて慎重に討議しましたが、2013年度作品賞は“該当作品無し”という審議結果となりました。この報告を受けて学会賞選考委員会横川公子委員長からは、“作品賞の考え方が示されていて、その方向性が出ていると思います。3件ともに説得力のあるものでしたが、作品の紹介というよりもデザイン教育の在り方やイベントの形成過程、歴史資料の復元によるデザイン理解と

いったことが主要なテーマになっており、ポスター発表としては有意義だと思いましたが、作品という点では直結しないと思いました。また個人作品を優先することも示唆されました。こういう点が今回の作品賞の評価で示されたと思います。ポスターセッションには、大きく分けると、作品介绍とデザイン・デザイン史理解に関する両側面があり、今までの受賞事例では、必ずしも明快でない場合もあったと思います。この点は、作品賞という限り、はっきり出していく必要があると思います。しかしポスターセッションの両側面の役割についても、有意義だと思います。論文賞・作品賞の対象にならないポスター発表についても、新しい知見のより迅速な公表とか、体系化までには至らない個々の成果などを議論に載せるというような意義があると考えます。”との指摘が為されました。パネル発表の作品数が減少しているという現実を考えると、活性化の意味からも作品賞のありかたの見直しを図る必要があると考えます。なお“2013年度作品賞該当作品無し”という判断は学会賞選考委員会として承認され、意匠学会役員会にて承認されました。